

◆◆◆ グラム補習授業校から ◆◆◆

補習授業校は4月6日に入学式・始業式を行い、2013年度がスタートしましたが、昨年度は、総領事館、学校理事会、先生方、保護者の皆様のおかげで、大きな事故もなく1年間の教育活動ができました。本当にありがとうございました。

さて、昨年度の1年を振り返ると、まず1年ってこんなに早く過ぎてしまうのかということを感じます。特に、「年を取ると月日の経つのが早い」といわれますが、今しみじみと実感しています。

それはともかくとして、昨年度の年間授業日数は43日で、うち国語の授業は41日、164時間でした。また、算数・数学は各学年41日、82時間でした。

こんなふうに数字を並べられても、この文章を読んでいる人には「ふうーん」で終わるのかも知れませんが、日本語を学んでいる補習授業校の子供たちにとっては、単なる数字ではなく、一つ一つの学習の積み重ねの跡なのです。

また、補習校は授業だけでなく年間を通して次のような行事を実施しました。

1 学 期	2 学 期	3 学 期
入学式・始業式 避難訓練 授業参観・懇談会 漢字大会 音読発表会	授業参観・懇談会 校外学習 秋祭り参加 漢字大会	書き初め スポーツ大会 授業参観・懇談会 漢字大会 卒業式・修了式

行事の中で一番印象に残ったのは、1月26日に行われたスポーツ大会でした。たくさんのご来賓の出席をいただいて行われたのですが、実施するまでは「本当にできるのだろうか？」と、とても不安でした。子供たちは土曜日だけの登校ですから、全く練習する時間がありません。放送、準備、審判、招集、得点など、必要な係の打ち合わせもない、まさに、「ぶっつけ本番」の行事でした。

ところが、大会が始まってみて、見事な運営に驚かされました。先生方、保護者のみなさんがすべて分かっている、「準備―運営―後片付け」と、何の混乱もなくてきぱきと仕事をされていました。保護者のみなさんのパワーを見せつけられた出来事でした。

また、中学部の子供たちの手伝いだけでなく、卒業生が何名か来て準備や後片付けをしてくれたのも驚きでした。こうして、たくさんの方々のご協力で「スポーツ大会」は大成功を収めました。

今年度も、授業の充実を図ると共に、子供たちの心に残る楽しい行事をしていきたいと思います。

補習授業校 校長 本間 勲



私のふるさと — 広島編 —

私の生まれ育った故郷は、被爆都市としてあまりにも有名な広島県広島市です。広島市は太田川デルタの上に位置し、市内を6本の川が流れ「水の都」とも呼ばれ、緑の多い街です。私の家も川に近かったので、子供の頃は潮が引くと干潟に行ってシジミ獲りをしたものです。

河口に近かったため、昔は牡蠣やハマグリもいたし、たまにカブトガニも泳いでいるのを見かけたこともあったのですが、高度経済成長期に川が一度ヘドロで汚染されてからはその姿を見ることはなくなりました。その後、河川の浄化活動が進んで川はきれいになり、シジミやゴカイは戻ってきました。

また、広島市にはカルビー、マツダ、オタフクソース、モルテン、ミカサなどの世界的に有名な企業がありますが、あまり知られていないところでは、全国シェアほぼ100%を誇る「縫い針」（生産量の半数は海外に輸出されている）、国産ビーズの全国シェア50%以上の「ガラスビーズ」も広島市で製造されています。

もうひとつ忘れてはならないのが広島市民の足「路面電車」です。

最近、日本のあちらこちらで地下鉄化が進み、路面電車は衰退の一途をたどっていますが、広島市では違っています。前にも述べたとおり、広島は街全体がデルタ（三角州）なので地下鉄網を張り巡らせることができないため、よその街で廃止になった路面電車の車両が広島市内を走りまわっています。元は大阪市電、京都市電、神戸市電、西鉄九州市内電車、遠いところでは西ドイツのトルント市電だった車両や、大正時代の車両を復元したレトロ電車、被爆電車なども元気に働いているので、電車好きにはたまらない動く電車の博物館となっています。

紙面に限りがありますので、広島名物「お好み焼き」のつくり方などはまたの機会をお借りすることにして、私の故郷「広島」自慢をこの辺で終わることにします。

天鳥 実沙子

参考資料：平成23年2月広島市広報誌 市民と市政、広島市の観光ガイド「ひろしまナビゲーター」、ひろでんアベニュー、広島ホームテレビ ひろしまQ

